

2 節は〈S + V〉を含む語のまとめ

大きな文の一部で、その中に〈主語＋述語動詞〉の関係を含むものを節(clause)と言う。節には等位節と従属節がある。

1 等位節

and, but, or, for, so などの等位接続詞で結ばれる節を等位節と言う。

I went to Paris and my father stayed in London.

S V S V

(僕はパリへ行き、父はロンドンに滞在した)

等位節はそれぞれが独立した文としても成り立つ。

I went to Paris. (僕はパリへ行った)

My father stayed in London. (父はロンドンに滞在した)

I went to the library but I couldn't find him there.

(図書館へ行ったが、彼を見つけられなかった)

I was tired, so I went to bed early.

(私は疲れていた、だから早く寝た)

2 従属節

中心になる文(主節)とそれに従属する文(従属節)とがある場合、従属節は文の要素になったり、主節を修飾したりする。次の if it is fine tomorrow は主節を修飾している。

We'll go on a picnic if it is fine tomorrow.

S V(主節) S V(従属節)

(明日晴れたら、私たちはピクニックに出かけます)

従属節は名詞節・形容詞節・副詞節の3つに分けられる。

①名詞節：文の要素(主語・目的語・補語)になる。

→ p.288 参照

I don't know when he will come.

S V O = 従属節

(彼がいつ来るのかわからない)

②形容詞節：名詞・代名詞を修飾する。

→ p.254 参照

Welcome anyone who wants to come.

↑ 代名詞を修飾

(来たい人は誰でも歓迎なさい)

③副詞節：動詞・形容詞・他の副詞を修飾する。

→ p.294 参照

I like Dave because he is very kind.

↑ 動詞を修飾

(とても親切だから私はデイブが好きです)

第11章 関係詞

イメージをつかもう

関係詞は「①前の言葉を説明する合図」

まずは日本語で考えてみましょう。

私は人に会った。

これだけではあまりに漠然としていて、言いたいことがよくわかりません。そこで、

→私は 昨日 人に会った。

→私は 昨日 駅で 人に会った。

→私は 昨日 駅で 以前一緒に働いていた 人に会った。

「人に会った」という状況について説明する言葉が増えて、文がだんだん長くなっています。増えていった3つの修飾語句「昨日」「駅で」「以前一緒に働いていた」のうち、1つだけ種類が違うのが、最後の「以前一緒に働いていた」です。「昨日」「駅で」は「会った」にかかりますが、「以前一緒に働いていた」は「人」にかかります。動詞ではなく名詞を修飾しています。しかも少し長い語句です。一番下の文を英語で書くとこのようになります。

I met a man who I worked with at the station yesterday.

日本語では修飾語句をただ増やしていけばいいのですが、英語では名詞を修飾する場合、これからその名詞を説明するよ、という合図の言葉が必要です。その1つが関係詞です。ここでは、a man のすぐ後ろの who が関係詞で、ここから a man を修飾する(説明する)語句ですよ、という合図になっています。名詞を後ろから説明する部分を先導するのは、関係詞には who の他、which や that もあります。

a man who spoke to me (私に話しかけた男の人)

the book which I read (私が読んだ本)

the flowers that we picked (私たちがつんだ花)

関係詞は「②名詞と文をつなぐ接着剤」

ちなみに、英語で名詞を後ろから修飾するのは、関係詞を使う場合だけではなく、分詞(他の語句を伴う場合)や不定詞も名詞の後ろに置かれます。

日本製の 車 cars made in Japan (分詞)

新車を買う お金 money to buy a new car (不定詞)

彼が買った 車 the car which he bought (関係詞)

ただ、関係詞には大きな特徴があります。それは、「～が…する」という〈主語+動詞〉のまとまり(=節)を導くことです。言いかえれば、名詞の後ろに〈S+V～〉がそろった文をくっつける役割です。名詞と名詞、文と文など、同じものをつなぐなら接続詞を使います。ところが名詞と文(節)のように異質なものをつなぐには特別な道具が必要です。それが関係詞です。

This is a secret between you and me. (接続詞)

あなた+私(代名詞と代名詞をつなぐ)

(これはあなたと私の間の秘密です)

I like her but she doesn't like me. (接続詞)

私は彼女が好きだ+彼女は私が好きでない(文と文をつなぐ)

(私は彼女が好きだが、彼女は私が好きではない)

The car which he bought was expensive. (関係詞)

車 + 彼が買った(名詞と文をつなぐ)

(彼が買った車は高価だった)



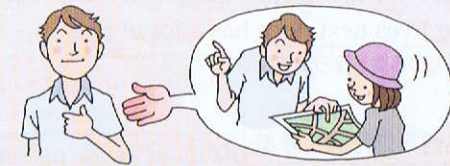
疑問詞から関係詞へ

ところで、関係詞と言えば who, which などが代表的ですが、who も which も疑問詞の「誰?」「どちら?」と同じ形ですね。なぜでしょうか。実は、関係代名詞の who, which などとはもともと疑問詞から発展したもののなのです。ですから、疑問詞の知識を活用して、次のように考えてみることもできます。

This is the man who showed me the way yesterday.

こちらは男の人です 誰かというと 昨日私に道を教えてくれた

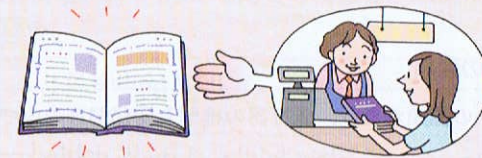
(こちらは昨日私に道を教えてくれた男の人です)



This is the book which I bought yesterday.

これは本です どちらの本かというと 私が昨日買った

(これは私が昨日買った本です)



疑問詞の who 「誰?」、which 「どちら?」が変化して、「誰かというとその人は～な人」、「どちらの…というとその人は～」のように後ろに〈主語+動詞〉を含む節を従える関係詞になっていったのです。

いろいろな関係詞

中学校で学んだ関係詞は関係代名詞のみで who, which, that くらいですが、それ以外にも次のような関係詞があります。

- 関係代名詞 — who, which, that, what
- 関係副詞 — where, when, why, how
- 複合関係詞 — whoever, whichever, whatever, wherever, whenever, however

数多くの関係詞の用法をマスターするために、どのような場合にどの関係詞を用いるかを理解することから始めましょう。

S116 必修

関係代名詞の働きと種類

262 The lady **who** lives next door has a lot of pets.

隣に住んでいる女性はペットをたくさん飼っている。

263 This is the watch **which** my uncle gave me.

これはおじさんが私にくれた時計だ。

Point 1 関係代名詞を使って前の名詞を修飾する

日本語では常に前から名詞を修飾するが、英語の関係代名詞は前の名詞を後ろから修飾する節を導く。前の名詞と節を結びつける接続詞の働きと、前の名詞をさす代名詞の働きをかねる。

262→ The lady **who** lives next door has a lot of pets.

↑ 前の名詞を後ろから説明

next door は「隣に」の意味の副詞句なので、前に in などの前置詞が見つからない。

Point 2 修飾される名詞を先行詞と呼ぶ

関係代名詞で始まる節を関係代名詞節、それに後ろから修飾される名詞を先行詞と呼ぶ。262 の the lady, 263 の the watch が先行詞にあたる。

263→ This is the watch **which** my uncle gave me.

先行詞 関係代名詞節

Point 3 関係代名詞の種類

関係代名詞にはいくつかの種類があり、先行詞の種類と関係詞節の中での働き(格)によって決まる。

先行詞	格	主格	所有格	目的格
人		who	whose	who / whom*
人以外		which	whose / of which	which
人と人以外		that	—	that

* whom は現在では堅い文章以外あまり使用されない。

CHECK AND EXPRESS 116

() 内に入る適当なものを下から選びなさい。

- The woman () is my aunt.
- The movie () was very exciting.
- Can you find the word in English ()?
[which means "hatsukanezumi" / which she watched last night / who is singing on the stage]

S117 必修

who, which, that(主格)の用法

264 I have a friend **who** can speak Spanish. 私にはスペイン語を話せる友人がいる。

265 This is a cell phone **which [that]** is selling well. これはよく売れている携帯電話だ。

先行詞を修飾する節の中で関係代名詞が主語の働きをするとき、主格の関係代名詞を用いる。

Point 1 who : 先行詞が「人」の場合

先行詞が「人」で、関係詞節の中で主語の働きをするとき、who を用いる(→ 264)。また、that も用いることができるが、who のほうが一般的である。

I have a friend . + He can speak Spanish.
↓ 主語の働き
who can speak Spanish

Spanish は「スペイン語」。国名の「スペイン」は Spain。

Point 2 which : 先行詞が「人以外」の場合

先行詞が「人以外」で、関係詞節の中で主語の働きをするとき、which または that を用いる(→ 265)。

This is a cell phone . + It is selling well.
↓ 主語の働き
which [that] is selling well

Point 3 先行詞 + who[which, that] + 動詞 ~

主格の関係代名詞は関係詞節中で主語の働きをするため、その後ろには動詞が来る。

I don't like people **who** lose their temper easily.

S V (私はすぐに腹を立てる人が嫌いだ)

参考 those who ~ は「~する人たち」の意味を表す。those は who の先行詞で、those people の people が省略されていると考えればよい。

CHECK AND EXPRESS 117

() 内に関係代名詞の who か which を入れなさい。

- The girl () was standing by the gate looked very happy.
- I bought a dictionary () had just been published.

§118 必修 who(m), which, that(目的格)の用法

266 He is *the man* **who(m)** I met at the party yesterday.
彼は私が昨日パーティーで会った人だ。

267 *The book* **which [that]** I want is not in this bookstore.
私がほしい本はこの本屋にはない。

先行詞を修飾する節の中で、関係代名詞が目的語の働きをするとき、目的格の関係代名詞を用いる。

Point 1 who, whom: 先行詞が「人」の場合

先行詞が「人」で、関係詞節の中で目的語の働きをするとき、who または whom を用いる(→ 266)。ただし、whom は非常に文語的なので、通常は who を用いる。また、that も用いることができるが、先行詞が「人」の場合は who のほうが一般的である。

疑問詞の whom も口語ではあまり使われず、who で代用することが多い。

He is the man. + I met him at the party yesterday.
↓ 目的語の働き
who(m) I met at the party yesterday

Point 2 which: 先行詞が「人以外」の場合

先行詞が「人以外」で、関係詞節の中で目的語の働きをするとき、which または that を用いる。

The book is not in this bookstore. + I want it.
↓ 目的語の働き
which [that] I want

Point 3 先行詞 + who(m) [which, that] + 主語 + 動詞 ~

目的格の関係代名詞の直後には「主語 + 動詞」が続くことに注目!

The mountain **which** we climbed last week was very high.
S V

(私たちが先週登った山はとても高かった)

! 注意 目的格の関係代名詞はよく省略される。

266 → He is the man I met at the party yesterday.

267 → The book I want is not in this bookstore.

★ p. 258 参照

CHECK AND EXPRESS 118

日本語の意味を表すように、()内の語(句)を並べかえなさい。

- 私は信用できる秘書がほしい。 I want a secretary (I / whom / trust / can).
- 彼は私たちのほとんどが嫌いなものを食べた。 He ate the food (like / most of us / which / didn't).

§119 必修 that が好まれる場合

268 This is *the best restaurant* **that** I know.
これは私が知っている最高のレストランだ。

269 He wrote about *the people and the things* (**that**) he was interested in.
彼は自分がおもしろいと思った人々と事柄について書いた。

that は who(m), which の代わりに主格、目的格の関係代名詞として用いられるが、特に that がよく用いられるのは、次のような場合である。

Point 1 先行詞に限定の意味が強い語がつく場合

- 形容詞の最上級(→ 268)
- all, every, any, no, the first, the only, the very, the same など
This is *the only English dictionary* **that** I have.
(これは私が持っているただ1冊の英語の辞書だ)
- 先行詞自体が **anything, nothing, everything** などのとき。
Is there *anything* **that** I can do for her?
(私が彼女にしてあげられることは何かありますか)

! 注意 上の場合でも、先行詞が人のときには who を用いることが多い。

He was *the first person* **who** brought tobacco to Europe.
(彼はヨーロッパにタバコをもたらした最初の人だった)

tobacco は植物の「タバコ」または「刻みタバコ」。紙巻きタバコは cigarette と言う。

Point 2 先行詞が「人+人以外のもの」の場合(→ 269)

The man and his car **that** disappeared a week ago haven't been found yet.
(1週間前に行方不明になった男と彼の車はまだ見つからない)

Point 3 先行詞が疑問詞 who, which である場合

wh- で始まる語が連続するのを避けるために that を用いる。

Who **that** knows him will believe it?
(彼を知っている人で誰がそれを信じるというのか)

Point 4 関係代名詞が主格補語となっている場合

He is not the great tennis player **that** he used to be.
C S V
(彼は以前のような偉大なテニス選手ではない)

CHECK AND EXPRESS 119

()内の語を並べかえて英文を完成しなさい。

- I like reading. I have read (the / have / books / I / all / that) at home.
- I'd like to know about the accident. Please (you / me / everything / tell / that / know) about it.

§ 120 必修 関係代名詞の省略

270 Is this *the boy* \wedge you met yesterday? この子はあなたが昨日会った少年ですか。

271 I like *the car* \wedge my father bought last month. 私は父が先月買った車が気に入っている。

Point 目的格の関係代名詞はよく省略される

目的格の関係代名詞である who(m), which, that は省略されることが多い。270, 271 の \wedge が関係代名詞の入る位置になる。

270 \rightarrow Is this *the boy* (who(m)) you met yesterday?

先行詞 S V

関係代名詞が省略されると、名詞(先行詞)の後に(主語+動詞)が続く形になる。

〈先行詞+S+V〜〉 ← 関係代名詞の省略

関係代名詞の省略に注意し、どこまでが関係代名詞節なのかを見抜くことが大切である。

The name of *the city* she is going to visit is Dublin.

(彼女が訪れる予定の市の名前はダブリンです)

Dublin はアイルランドの首都。

Q参考 目的格以外の関係代名詞が省略される場合がある。

① 関係代名詞 that が主格補語になるとき

He is not the man (that) he used to be. (彼は昔の彼ではない)

(C) S V

② 主格の関係代名詞が There is [are] ~, Here is [are] ~ や、強調構文の It is ~ に続くとき

There is a lady downstairs (who) wants to speak to you.

(あなたにお話ししたいという婦人が下に来ていますよ)

③ 関係代名詞の次に there is ~ が続くとき

She is one of the best scientists (who) there are in the world.

(彼女は現在の世界にいる最もすぐれた科学者の1人だ)

CHECK AND EXPRESS 120

次の各場面でああなたは言うか、関係代名詞を省略した文をつくりなさい。

(例) He lost the passport, but it was found yesterday.

"The passport he had lost was found yesterday."

1. A friend is wearing a dress. You like it.

"I like the dress you _____."

2. A friend is going to see a movie. You want to know the name of it.

"What's the name of the movie you _____?"

§ 121 必修 whose(所有格)の用法

272 He is a writer whose name is known to many people.

彼は名前が多くの人に知られている作家だ。

273 She sang a song whose title I can't remember now.

彼女は私が今タイトルを思い出せない曲をうたった。

Point 1 所有格 whose

先行詞を修飾する節の中で関係代名詞が所有格の場合、先行詞が「人」「人以外」に関わらず、所有格の関係代名詞 whose を用いる。whose の後ろには必ず名詞が来て、「(先行詞)の〜」という意味になる(→ 272, 273)。

He is a writer. + His name is known to many people.

所有格

whose name is known to many people

Point 2 先行詞 + whose + 名詞 ~

所有格の whose の直後には必ず名詞が続き、〈whose + 名詞〉が関係代名詞節の中で主語や目的語になる。主語になっている場合は直後に動詞が続き、目的語になっている場合は直後に(主語+動詞)が続く。

272 \rightarrow He is a writer whose name is known to many people.

S V

[主語]

That is a house whose roof I repaired yesterday.

[目的語]

O S V

(あれは昨日私が屋根をなおした家だ)

leaf(葉) \rightarrow leaves.
knife(ナイフ) \rightarrow knives
だが、roofの複数形は roofs.

!注意 先行詞が「人以外」の場合、〈whose + 名詞〉の代わりに〈the + 名詞 + of which〉を用いて表すことができるが、非常に堅苦しい形式ばった表現となるため、通常は用いられない。

273 \rightarrow She sang a song the title of which I can't remember now.

CHECK AND EXPRESS 121

次の状況でああなたは言うか、関係代名詞 whose を用いた文をつくりなさい。

1. You met a man. He said his wife is a nurse.

"I met a man _____."

2. She gave you a pen. Its ink had run out.

* run out なくなる

"She gave me a pen _____."

§122 必修

関係代名詞 what

274 **What** I want now is a new computer. 私が今ほしいのは新しいコンピューターだ。

275 I can't understand **what** she is saying. 私は彼女の言っていることが理解できない。

関係代名詞の中で他とは異なる働きをするのが what である。

Point 1 関係代名詞 what には先行詞がない

「私がほしいもの」「彼女が言うこと」のように、「～するもの」「～すること」という意味を表すとき、関係代名詞の what を用いる。what 以下は the thing(s) which ~ と同じ意味で、what は先行詞 the thing(s) をそれ自身に含んでいるため、外見上は先行詞がない。

274→ The thing *which* I want now is a new computer.

275→ I can't understand the things *which* she says.

Point 2 what で始まる節は名詞の働きをする

what で始まる節は、先行詞を修飾する他の関係代名詞節と異なり、文中で主語(→ 274)、補語、目的語(→ 275)、前置詞の目的語の役割をする名詞節になる。

This is exactly **what** he should do. [補語]

S V C

(これこそまさに彼がすべきことだ)

My father told me **what** he was thinking. [直接目的語]

S V IO DO

(父は考えていたことを私に話してくれた)

There is some truth *in* **what** Bill says. [前置詞の目的語]

前置詞

(ビルが言うことにはいくぶん真実がある)

【注意】 who, which, that などでは始まる関係代名詞節は、先行詞を修飾する形容詞節。一方、what で始まる節は名詞節。

The thing **which** I am telling you is very important.

(the thing を修飾=形容詞の働き→形容詞節)

What I am telling you is very important.

(私があなたに言っていることはとても重要だ) [文の主語になる=名詞の働き→名詞節]

Q参考 接続詞 that と関係代名詞 what の違い

接続詞 that と関係代名詞 what は意味が似ているが、明確な違いがある。

1) I remember **what** he told me.

(私は彼が私に話したことを覚えている)

2) I remember **that**he told me the story.

(私は彼が私にその話をしたということは覚えている)

what は「内容」を表し、1)の what he told me は「彼が私に話したこと」、つまり「話した内容」という意味である。それに対し that は「事実」を表し、

2)の that he told me ~ は「彼が話したという事実」という意味になる。

CHECK AND EXPRESS 122

関係代名詞 what を用いて下線を強調した言い方にしなさい。

(例) You need to plan ahead. → What you need to do is to plan ahead.

(あなたがする必要のあることは、事前に計画することだ)

1. You have to pay attention to the details.

→ _____ is to pay attention to the details.

(あなたがしなければならないことは細部に注意することだ)

2. She should try to persuade him.

→ _____ is to try to persuade him.

(彼女がすべきことは彼を説得しようとするのだ)



ギモンのタネ (29)

Do you know what she said? の what は疑問詞? それとも関係代名詞?

次の文の what は「何～」という疑問詞、関係代名詞のどちらだろうか。

(1) Do you know **what** she said?

(2) I don't believe **what** she said.

(1) は「彼女が何を言ったか知っていますか」[疑問詞]、「彼女が言ったことを知っていますか」[関係代名詞]のどちらでも意味が通じるため、区別することにあまり意味はない。(2) は「私は彼女が言ったことを信じていない」[関係代名詞]になる。「私は彼女が何を言ったか信じていない」[疑問詞]は変である。

関係詞 what は疑問詞から発展した用法であるため、区別が難しい場合があるが、文脈や前後関係から判断できる。また what の前の動詞によってある程度は区別できる。

① 質問・疑問の意味を表す動詞(ask, wonder など)の場合は疑問詞。

I wondered **what** he wanted.

[疑問詞]

(彼は何がほしいのかしらと思った)

② 動作の対象を明確に表す必要のある動詞(give, take など)の場合は関係代名詞。

I gave him **what**he wanted.

[関係代名詞]

(私は彼がほしがるものをあげた)

➔ 文脈から判断すること



§123 必修

関係代名詞 what を含む慣用表現

276 He is **what is called** a superman. 彼はいわゆるスーパーマンだ。

277 Her sister is bright, and **what is better**, charming.

彼女の姉[妹]は聡明で、さらによいことに魅力的だ。

関係代名詞 what はさまざまな慣用表現に用いられる。

Point 1 what we [you] call, what is called 「いわゆる」(→ 276)

Mr. Smith is **what we [you] call** a self-made man.

= Mr. Smith is **what is called** a self-made man.

(スミス氏はいわゆる自力で出世した人だ)

Point 2 what is +比較級 「さらに～なことには」(→ 277)

挿入句的に用いられる。

It was very cold, and **what is more**, it was snowing.

(とても寒くて、さらに雪が降っていた)

He had an accident, and **what was worse**, he broke his leg.

(彼は事故にあい、さらに悪いことに、脚を折った)

what is better は「さらによいことには」の意味になる。

Point 3 A is to B what C is to D 「AとBの関係はCとDの関係と同じ」

A bank **is to** a country **what** the heart **is to** the body.

(銀行と国との関係は、心臓と体の関係と同じである)

Point 4 what with A and (what with) B 「AやらBやらで」

What with the heat and **what with** hunger, I could not sleep well. (暑さや飢えて、私は十分に眠れなかった)

/注意 what A is / what A was [used to be] 「現在のA / 過去のA」

This town is different from **what it used to be**.

(この町は昔とは違う)

My mother has made me **what I am**.

(今の私は母のおかげだ)

George is not **what he was** ten years ago.

(ジョージは10年前の彼ではない)

人について述べるときは、現在では what よりも who が用いられることが多い。

→ George is not **who he was** ten years ago.

Q参考 <what + 名詞> 「～するだけの～」 「～する全部の～」

what は<what + 名詞>の形で用いられることがある。その場合の what は関係形容詞と呼ばれる。この what には any(どんな)、all(すべての)の意味が含まれている。

She gave me **what help** I needed.

= She gave me all the help (that) I needed.

(彼女は私の必要な援助はすべてしてくれた)

which も<which + 名詞>の形で用いられることがある。その場合は非制限用法で、「そしてその～」の意味になる。非常に文語的である。

→ p.270 参照

I may have to come home late, in **which case** I'll call you.

(帰宅が遅くなるかもしれない、その場合には電話します)

Q参考 <what few [little] + 名詞> 「少ないながらそのすべての～」の意味を表す。

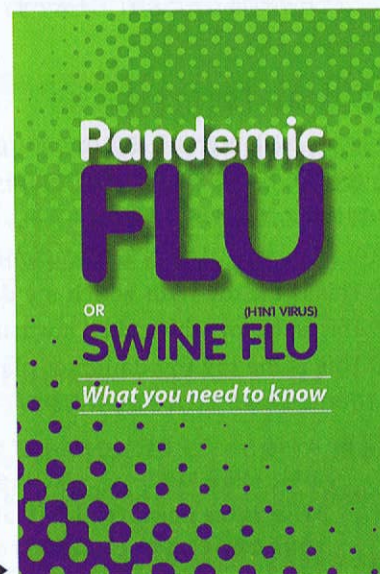
The scholar spent **what little** money he had on books.

(その学者は、持っているわずかなお金をすべて本につぎ込んだ)

CHECK AND EXPRESS 123

()内に入る適当なものを下から選んで答えなさい。

- Mary is () an honor student.
- She was careless, unkind, and (), dishonest.
- Mr. Brown has made his company ().
[what he is / what it is / what is called / what is more]



What you need to know
(あなたが知る必要のあること)
パンデミックインフルエンザ
豚インフルエンザについての
パンフレット▶

§124 必修

関係代名詞と前置詞

278 The people **(who(m))** I work **with** are very nice.

279 The people **(that)** I work **with** are very nice.

280 The people **with whom** I work are very nice.

私と一緒に働いている人々はとてもいい人たちだ。

目的格の関係代名詞 who(m), which, that は関係代名詞節中で、前置詞の目的語となることがある(→ 278, 279)。

Point 1 関係代名詞が前置詞の目的語になることがある

The people are very nice. + I work *with* **them**.
前置詞 ↓
who(m) I work *with*

them は前置詞 with の目的語となっているので、目的格の関係代名詞 who(m) を使って 2 文を結ぶ。

Point 2 前置詞の位置は 2 通り

1 前置詞が後ろに来る場合

278, 279 のように前置詞を関係代名詞節の後ろに置く形が一般的で、その場合は関係代名詞が省略されるのがふつうである。

This is the book **(which [that])** I told you **about** yesterday.
(これが昨日あなたにお話した本です)

2 <前置詞+関係代名詞>の場合

280 のように前置詞を関係代名詞の前に置く<前置詞+関係代名詞>という形もあるが、非常に堅い表現で口語では用いられない。また、この場合の関係代名詞は省略できない。

次の 3 つの英文では①が文語的、③が最も口語的である。

① This is the toy **with which** my daughter plays every day. [文語的]

② This is the toy **which [that]** my daughter plays **with** every day. ↓

③ This is the toy my daughter plays **with** every day. [口語的]

(それは私の娘が毎日遊ぶおもちゃだ)

【注意】 次の場合は必ず前置詞を後ろに置く。

① 動詞と前置詞の結びつきが強い場合

What is the music **(which [that])** you are listening to?

(あなたが聴いているのはどんな音楽ですか)

daughter の発音は [dɔ:tər] で、gh を読まない。

② 群動詞などの前置詞

<動詞+前置詞><動詞+名詞+前置詞>などの群動詞や、<be+形容詞+前置詞>なども、動詞・形容詞と前置詞の結びつきが強いため、前置詞を動詞の後に置く。

Mariko is the player **(whom)** we depend on.

(まり子は私たちが頼りにしている選手だ) * depend on ~に頼る

Rock is the music **(which)** young people are interested in.

(ロックは若者が興味を持っている音楽だ) * be interested in ~に興味がある

③ 関係代名詞が who, that の場合

whom の前には前置詞を置けるが、who, that の前には置けない。

I don't know the girl **(who)** you were talking to.

= I don't know the girl **to whom** you were talking.

× I don't know the girl *to who* you were talking.

(私はあなたが話しかけていた女の子を知らない)

The company **(that)** he works for is very large.

× The company *for that* he works is very large.

(彼が勤めている会社はとても大きい)

talk to ~は「~に話しかける」、talk with ~で「~と話す、話し合う」。

Q参考 <前置詞+関係代名詞+不定詞>

形式ばった文では、関係代名詞の後に不定詞が来ることがある。

Jenny found a small vase **in which** to put the flowers.

→ Jenny found a small vase *in which* she could put the flowers.

(ジェニーは花を生ける小さな花瓶を見つけた)

CHECK AND EXPRESS 124

日本語の意味を表すように、()内に適当な 1 語を入れなさい。

1. 妹が寝る部屋は広い。 The room () my sister sleeps () is big.
2. これは私が探していた人だ。 This is the man () I have been looking ().

表現BOX (15) 関係代名詞の二重限定

1 つの先行詞の後に関係代名詞で始まる 2 つの節が来ることがある。最初の関係代名詞節によって修飾された先行詞が、2 つめの関係代名詞節によってさらに修飾される形で、関係代名詞の二重限定と言う。最初の関係代名詞は省略されることもある。

He is the only student **(that)** I know **who** speaks French.

(私の知っている学生で、フランス語を話すのは彼だけだ)

It's something **(that)** you don't have **that** you want. Guess what it is.

(それはあなたが持っていないもので、しかもほしがっているものだ。何かあててごらん)

上の例文の that は両方とも目的格である。最初の that は省略できるが、後の that は省略できない。

S125 必修

関係副詞 where, when

281 Kyoto is the city **where** I spent my childhood.

京都は私が子ども時代を過ごした市だ。

282 I remember the day **when** I first saw him.

私は彼に初めて会った日のことを覚えている。

Point 1 関係代名詞と関係副詞

関係副詞は、関係代名詞と同様に先行詞を修飾する働きをするが、関係代名詞が〈接続詞＋代名詞〉の働きをするのに対し、関係副詞は〈接続詞＋副詞〉の働きをする。

Point 2 関係副詞 where は場所を先行詞にする

先行詞が場所を表す語のときは、関係副詞 where を用いて、どのような場所かを表す(→ 281)。

Kyoto is the city . + I spent my childhood there [= in the city].

副詞(句)

where I spent my childhood

The park **where** we used to go is in the center of the city.

(私たちがよく行った公園は町の真ん中にある)

Q参考 先行詞が「場合・状況など」の where

先行詞が case(場合), point(点), situation(状況)などの語の場合も、where を用いる。

There are cases **where** this rule does not apply.

(この規則があてはまらない場合もある)

-hood は「時期、状態、集団」などを表す接尾辞。childhood(子ども時代), boyhood(少年時代), neighborhood(近所)などがある。

Point 3 関係副詞 when は時を先行詞にする

先行詞が時を表す語のときは、関係副詞 when を用いて、どのような時かを表す(→ 282)。

I remember the day . + I first saw him then [= on the day].

副詞(句)

when I first saw him

!注意 先行詞と修飾する節が離れる場合もある。

The time will soon come **when** your dream will come true.

(あなたの夢が実現する時がやがて来るだろう)

Q参考 where, when は〈前置詞＋which〉の形に書きかえが可能。

281→ Kyoto is the city **in which** I spent my childhood.

282→ I remember the day **on which** I first saw him.

Point 4 先行詞が省略される場合

関係副詞 when, where の先行詞が the time, the place, the point などの場合、先行詞はよく省略される。

Fall is **when** children go back to school.

↑ the time が省略されている

(秋は子どもたちが学校へ戻って来る時です)

That is **where** you are mistaken.

↑ the point が省略されている

(そこがあなたの間違っている点だ)

!注意 関係副詞 when を省略することも多い。関係副詞 where は先行詞が place の場合に省略されることがある。

I visited many historic spots during the time (**when**) I was in China.

(中国にいた間に、私はたくさんの名所旧跡を訪れた)

Last summer I went back to the place (**where**) I was born and grew up.

(昨年の夏私は生まれ育った土地に帰った)

英米では学年の始まりは9月。

ギモンのツネ (30) 関係代名詞と関係副詞の区別は？

次の 1), 2) の文を比較しよう。先行詞が同じなのになぜ関係詞が異なるのか。

1) Summer is the season **when** young people enjoy surfing.

(夏は若者がサーフィンを楽しむ季節だ)

2) Summer is the season **which** I like best.

(夏は私が一番好きな季節だ)

関係詞節中での働きによって関係代名詞、関係副詞のどちらを使うかが決まる。

1) → young people enjoy surfing **in** the season

副詞句→関係副詞 when

2) → I like the season best

名詞(目的語)→関係代名詞 which

→ 関係詞節での働きを見ること

CHECK AND EXPRESS 125

次の内容を述べる時どのように言うか、()内の語を用いて関係副詞を用いた英文をつくりなさい。

1. 故郷の町は2つの川が合流するところである。(meet)

My hometown is the place _____.

2. 土曜日には父が夕食づくりを担当する。(fix supper)

Saturday is the day _____.

§126 必修 関係副詞 why, how

- 283** I don't know the reason **why** he got so angry.
彼がそんなに怒った理由がわからない。
- 284** That's **why** I didn't tell him the truth.
そういう理由で私は彼に本当のことを言わなかったのだ。
- 285** Please show me **how** this machine works.
この機械の動き方を見せてください。
- 286** That's **how** the accident happened.
そのようにしてその事故は起こったのだ。

Point 1 関係副詞 why

関係副詞の why は the reason という先行詞を受けて「理由」を述べるときに使われる(→ 283)。

There is *no reason* **why** we shouldn't do it.
(私たちがそれをしてはいけないという理由はない)

The reason **why** he was fired is not clear.
(彼が解雇された理由は明らかでない)

先行詞 the reason が主語になっている場合以外は、the reason が省略されて、why を単独で用いることが多い。また、why を省き、the reason を単独で用いる場合もある。

283→ I don't know **why** he got so angry.
 I don't know **the reason** he got so angry.

fire は動詞で「解雇する、発砲する」などの意味を表す。

Point 2 This [That] is why ~. 「こういう(そういう)理由で~」

This [That] is **why** ~. は「こういう[そういう]理由で~」の意味で、特に口語でよく用いられる(→ 284)。

This is why words sometimes have great power over us.
(こういう理由で言葉は時に私たちに大きな影響を及ぼす)

Point 3 関係副詞 how

関係副詞の how の先行詞は「方法」を表す the way だが、必ず the way か how の一方を用いる。**285** は the way が省略されている。

285→ Please show me **the way** this machine works.
 Do you know $\left\{ \begin{array}{l} \text{the way} \\ \text{how} \end{array} \right\}$ a penguin brings up its chicks?
(あなたはペンギンがヒナを育てる方法を知っていますか)

Point 4 This [That] is how ~. 「このよう[そのよう]にして~」

This [That] is **how** [the way] ~ は「このよう[そのよう]にして~」の意味で用いられる(→ 286)。

286→ That's **the way** the accident happened.
This is how we set up our tent on a stormy day.
(このようにして私たちは嵐の日にテントを張るのだ)

注意 the way ~ が「~のように、~の通りに」の意味で接続詞的に用いられることがある。

My mother cooks **stew** **the way** I like it.
(私の母は私が好きなようにシチューをつくってくれる)

stew [st(j)ú:] の ew は [(j)u:] と発音する。new (新しい), few (ほとんどない) の ew も同じ。

CHECK AND EXPRESS 126

日本語の意味を表すように、() 内の語(句)を並べかえなさい。

- その小説家は国を出て二度と戻らなかった。彼がなぜ外国に行ったのかはいまだに謎だ。
 The novelist left his country and never came home. (he / the reason / abroad / why / went) is still a mystery.
- 彼女は激しく泣いている。あなたが彼女になぜあんなことを言ったのか理解できない。
 She is crying bitterly. I cannot understand (said / such / why / you / a thing) to her.
- テニスが上手ですね。どのようにラケットを振るのか見せてくれませんか。
 You are a good tennis player. Will you (swing / show / you / me / how) a racket?

読解BOX ② 挿入部分を含む関係詞節

関係詞の直後に(主語 + believe [say, hear, think など])が挿入されていることがある。その場合は、挿入部分を()でくくって考えるとよい。

She is a woman who (I believe) will be a good journalist.
 S V

(彼女は素晴らしいジャーナリストになる[と私が信じている]女性だ)

この文で whom ではなく who が使われていることに注意。who は I believe の目的語ではなく、will be a good journalist の主語である。

この文は次の2文を関係代名詞でまとめたものと考えよう。

→ She is a woman. + I believe (that) she will be a good journalist.
↑ この接続詞 that は関係詞節に入れない

The man who(m) (I hear) she is going to marry is a friend of my cousin's.

(彼女が結婚する予定である[と聞いている]男性は私のいとこの友達だ)

→ The man is a friend of my cousin's. + I hear (that) she is going to marry him.

Do what (you think) is right.

(あなたが正しい[と思う]ことをしなさい)

この文は what is right (正しいこと)に you think が挿入されている。

§127 必修

関係代名詞の非制限用法

287 I like John, **who** is very kind to everybody.

私はジョンが好きだ、彼は誰に対しても親切だからだ。

288 Hong Kong, **which** I like very much, is an exciting city.

香港は私が好きな街だが、とてもおもしろい街だ。

289 He passed the test, **which** pleased his parents.

彼は試験に合格した。それで両親は喜んだ。

Point 1 制限用法と非制限用法

これまで学んできた先行詞を修飾する関係詞の用法は、制限用法(限定用法)と呼ばれる。これとは別に、先行詞の後にコンマを置いて、その先行詞を付加的に説明したり情報を加えたりする用法もある。これを非制限用法(継続用法)と呼ぶ。非制限用法の関係代名詞は、目的格でも省略できない。

【注意】コンマの有無による意味の違い

1) I will employ someone **who** can speak English well. [制限用法]

(私は英語がうまく話せる人を雇うつもりだ)

2) I will employ Jiro, **who** can speak English well. [非制限用法]

(私は次郎を雇うつもりだ。英語がうまく話せるから)

1)では who 以下の関係代名詞節が、不特定の人のうち「英語がうまく話せる人」に限定する働きをする。それに対して2)では、先行詞は Jiro とすでに特定されていて、who 以下は Jiro の補足説明となる。

Point 2 who の非制限用法

who, whose, whom とともに非制限用法で用いられる(→ 287)。

I met an old friend of mine, **who** could not recognize me. [主格]

(私は旧友に会ったが、彼は私のことがわからなかった)

His cousin, **whose** name I forgot, was a nurse. [所有格]

(彼のいとこは、名前は忘れたが、看護師だった)

Mr. Ozawa, **who(m)** we happened to see, is a world-famous conductor. [目的格]

(小澤氏は、私たちはたまたま彼を見かけたが、世界的に有名な指揮者だ)

Point 3 which の非制限用法(→ 288)

My aunt gave me a watch, **which** was very expensive. [主格]

(おばは私に時計をくれたが、それはとても高価なものだった)

Air, **which** we breathe every day, is made up of many gases. [目的格]

(空気は、私たちが毎日吸っているが、多くの気体からできている)

【参考】what, that には非制限用法はない。

Point 4 前の文を先行詞とする which

非制限用法の which には前の文の一部、または前の文全体を先行詞とする用法がある。289 では which が前の He passed the test(試験に合格した)ことを受けて、それが「両親を喜ばせた」とつながる。

We tried to open the door, **which** we found impossible.

(私たちはドアを押し開けようとしたが、それは不可能だとわかった) [前文の一部]

She said she was very sick, **which** was not true. [前文の一部]

(彼女はとても気分が悪いと言ったが、それは本当ではなかった)

Every student respects Mr. Smith, **which** I think is natural.

(学生全員がスミス先生を尊敬しているが、私はそれは当然だと思う) [前文全体]

respect は re(振り返る)+ spect(見る)より、「価値を認める、尊敬する」の意味になる。

【注意】先行詞について補足説明を加える非制限用法は、理由や譲歩の意味を含んでいることが多い。この場合、(接続詞(and, but, because など)+(代)名詞)の形に書きかえることができる。

287)→ I like John, *because he* is very kind to everybody.

289)→ He passed the test, *and it* pleased his parents.

Point 5 (前置詞+関係代名詞)の非制限用法

(前置詞+関係代名詞)の形も非制限用法で用いられる。

At the station I met Mike, **to whom** I didn't speak.

= At the station I met Mike, **who(m)** I didn't speak **to**.

(私は駅でマイクに会ったが、彼には話しかけなかった)

I gave Tom some advice, **to which** he would not listen.

= I gave Tom some advice, **which** he would not listen **to**.

(私はトムにいくらか忠告をしたが、彼はそれに耳を傾けなかった)

【参考】some [all, many, none など]+ of whom [which]

非制限用法には「そのうちの〜が」という意味を表す用法がある。some of whom(そのうちの何人が)、none of which(そのうちのどれも〜ない)などの形になる。

I have a lot of friends, **some of whom** live abroad.

(私には数多くの友人がいるが、そのうち何人かは海外に住んでいる)

We have three spare rooms, **none of which** can be used.

(空き部屋が3つあるが、そのどれもが使えない)

abroad は「外国に」、aboard は「(船などに)乗って」。

CHECK AND EXPRESS 127

下線部は、斜字体の語句を補足説明している。下線部が日本語の意味を表すように、()内に適当な1語を入れなさい。

- Mrs. Jones doesn't like *small children*, () are usually noisy. (常にやかましいから)
- He wants to *master French in a month*, () I think () impossible. (私は不可能だと思う)

§128 必修

関係副詞の非制限用法

290 I went to Narita Airport, **where** I took a plane to London.

私は成田空港に行き、そこでロンドン行き飛行機に乗った。

291 We arrived in London on January 20, **when** it was very cold.

私たちは1月20日にロンドンに着いたが、その日はとても寒かった。

関係副詞の非制限用法で用いられるのは where と when で、why, how は用いられない。

Point 1 where の非制限用法「そしてそこで～」

先行詞となっているその場所に関する情報をつけ加えて「そしてそこで～」という意味になる(→ 290)。

We came to a lake, **where** we took a rest for a while.

(私たちは湖のところに来た。そしてそこでしばらく休憩した)

Shinjuku Station, **where** I take the train every weekday, is always crowded.

(新宿駅は私が平日は毎日電車に乗る駅だが、いつも混雑している)

「平日」は weekday.
「週末」は weekend.

Point 2 when の非制限用法「そしてそのとき～」

先行詞となっているその時に関する情報をつけ加えて「そしてそのとき～」 「そしてそれから～」などの意味になる(→ 291)。

Let's wait till noon, **when** Sue will come back.

(正午まで待とう。その時にはスーが帰ってくるから)

He was about to go home, **when** it began to snow.

(彼が帰宅しようとしていると雪が降り始めた)

!注意 非制限用法の where は〈接続詞(and, but, because など) + there〉に、when は〈接続詞(and, but, because など) + then〉に書きかえられることもある。

We went to a lake, **where** we took a rest for a while.

→ We went to a lake, **and there** we took a rest for a while.

He was about to go home, **when** it began to snow.

→ He was about to go home, **and then** it began to snow.

CHECK AND EXPRESS 128

下線部の語について、情報を付加する部分を関係副詞を用いて書きなさい。

- I have a friend called Jill. She has been to Norway. Her daughter lives there.
My friend Jill has been to Norway, _____.
- Autumn in Japan is a very wonderful season. A lot of foreign tourists come in autumn.
Autumn in Japan, _____, is a very wonderful season.



ギモンのタネ 31

「雪におおわれた富士山」は Mt. Fuji which is covered with snow? それとも Mt. Fuji, which is covered with snow?

「富士山」と言った時点で既に1つに限定されるから、それをさらに「雪におおわれた」と制限用法で限定するのはおかしい。まるで富士山が複数存在していて、そのうちの「雪におおわれた」ほうをさしているかのように感じられるからだ。だからこの場合は Mt. Fuji, which is covered with snow と非制限用法を用いる。

制限用法の先行詞は通常不特定のもので、関係詞節に修飾されて初めて何をさしているのかがわかる。それに対して、非制限用法の先行詞は特定のものが多く、関係詞節がそれに補足説明を加える。

先行詞が以下のような場合、関係詞はふつう非制限用法となる。

① 固有名詞

Thanks to Tom, **who** introduced me to a good doctor, I recovered quickly.

(トムが私によい医者を紹介してくれたおかげで、私はすぐに回復した)

② 唯一のもの

The earth, **which** moves around the sun, is called a planet.

(地球は太陽のまわりを回っていて、惑星と呼ばれる)

③ this や that, 人称代名詞の所有格などで先行詞がすでに限定されている場合

Our teacher, **who** teaches us math every day, is very strict.

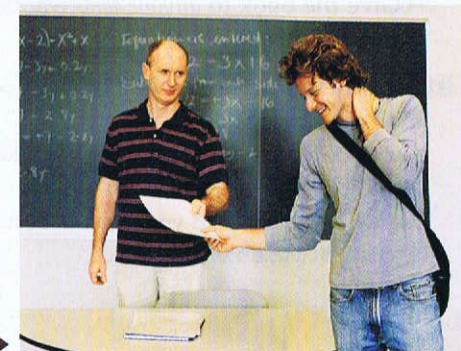
(私たちの先生は毎日数学を教えてくれるが、とても厳しい)

④ 文脈から特定できる場合

He has bought a new car. The car, **which** runs on biofuel, is environmentally friendly.

(彼は新車を買った。その車はバイオ燃料で走り、環境にやさしいものだ)

➔ 固有名詞や特定のものには非制限用法



Our teacher, who teaches us math every day, is very strict. ▶

§129 発展

複合関係代名詞

292 **Whoever** wants to read this magazine may read it.

この雑誌を読みたい人は誰でも読んでよい。

293 I will tell you **whatever** you want to know.

あなたが知りたいことは何でも話します。

294 **Whatever** happens, I won't change my mind.

たとえ何が起ころうとも、私は決心を変えない。

Point 1 関係代名詞 + -ever

関係代名詞 who, which, what に -ever のついた形を複合関係代名詞と言う。名詞節を導く用法と、譲歩を表す副詞節を導く用法とがある。

Point 2 名詞節を導く用法

who(m)ever ~ 「～する人は[を]誰でも」(= anyone who(m) ~)

whatever ~ 「～するものは[を]何でも」(= anything that ~)

whichever ~ 「～するものは[を]どちらでも」
(= any [either] one that ~)

先行詞をその中に含み、「～する人[物]は誰[どれ、何]でも」の意味を表す。文中で主語(→ 292)、動詞の目的語(→ 293)、前置詞の目的語となる名詞節をつくる。

292→ *Anyone who* wants to read this magazine may read it.

293→ I will tell you *anything (that)* you want to know.

Choose **whichever** you want. [動詞の目的語]

→ Choose *any one (that)* you want.

(好きなものをどちらでも選びなさい)

Give the book to **whoever** wants it. [前置詞の目的語]

* 節全体は前置詞の目的語だが、節中では *whoever* が動詞 *wants* の主語

→ Give the book to *anyone who* wants it.

(その本を誰でもほしい人にあげなさい)

!注意 **whichever**, **whatever** は後に名詞を伴って、形容詞的に用いることもある。

You can choose **whichever** cake you like.

(どちらでも好きなケーキを選んでいいよ)

Use **whatever** method you think is best.

(あなたが一番いいと思う方法を用いなさい)

any は否定文・疑問文では「何も」「何か」の意味だが、肯定文では「どんな～でも」の意味になる。

!注意 目的格でも **whomever** の代わりに **whoever** を用いるのが一般的である。

He told the news to **whoever** [**whomever**] he met.

(彼はそのニュースを会う人誰にでも話した)

Point 3 譲歩を表す副詞節を導く用法

who(m)ever ~ 「たとえ誰が[を]～しても」
(= no matter who(m) ~)

whatever ~ 「たとえ何が[を]～しても」
(= no matter what ~)

whichever ~ 「たとえどちらが[を]～しても」
(= no matter which ~)

「たとえ～でも」という譲歩の意味を表す用法で、複合関係代名詞に導かれる節は副詞節となる。時や条件を表す副詞節と同じように、未来のことを表す場合は現在形を用いる(→ 294)。同じ意味を、(no matter who(m) / what / which ~)を用いて表すことができる。

Whoever visits him, they will be welcomed.

→ *No matter who* visits him, they will be welcomed.

(たとえ誰が彼を訪問しても、歓迎されるだろう)

Whichever dictionary you choose, you'll be happy.

→ *No matter which* dictionary you choose, you'll be happy.

(どちらの辞書を選んだとしても、満足するでしょう)

!注意 譲歩の意味を表す副詞節中では、動詞に *may* をつけることもある。これは文語的な用法である。

294→ **Whatever** *may* happen, I won't change my mind.

No matter what may happen, I won't change my mind.

CHECK AND EXPRESS 129

下線部が日本語の意味を表すように、複合関係代名詞を用いて書きかえなさい。

1. You can use any knife you like. (どのナイフでも好きなものを)
2. Anything that has a beginning also has an end. (始まりがあるものは何でも)
3. Don't open the door no matter who comes. (誰が来ようとも)

§130 発展

複合関係副詞

295 You can park your car **wherever** you like.

どこでもあなたの好きなところに駐車してよしい。

296 **Whenever** you come, I'll be glad to see you.

あなたがいつ来てくださっても、喜んでお会いします。

297 **However** hard your job is, don't give up.

どんなに仕事がつらくてもあきらめてはいけない。

関係副詞 where, when, how に -ever がついたものを複合関係副詞と言い、副詞節を導く。

Point 1 副詞節を導く **wherever, whenever**

wherever 「～するところはどこでも」(= at [to] any place where ~)

whenever 「～するときはいつでも」(= at any time when ~)

295→ You can park your car *at any place (where)* you like.

Please come to see me **whenever** it is convenient for you.

→ Please come to see me *at any time (when)* it is convenient for you. (あなたの都合がよいときにいつでも遊びに来てください)

park は動詞で「駐車する」、名詞は「公園」。

Point 2 譲歩を表す **wherever, whenever, however**

wherever ~ 「たとどこで[へ]~しても」(= no matter where ~)

whenever ~ 「たといつ~しても」(= no matter when ~)

296→ *No matter when* you come, I'll be glad to see you.

Wherever he goes, he is warmly welcomed.

→ *No matter where* he goes, he is warmly welcomed.

(彼はたとどこに行っても温かく迎えられる)

however + 形容詞・副詞 + S + V ~ 「たとどんなに~でも」

(= no matter how + 形容詞・副詞 + S + V ~)

複合関係副詞 **however** は後に形容詞・副詞を伴って、譲歩の意味を表す。

297→ *No matter how* hard your job is, don't give up.

However tired you are, you should not sleep now.

→ *No matter how* tired you are, you should not sleep now.

(どんなに疲れていても今眠ってはいけない)

CHECK AND EXPRESS 130

()内の語を並べかえて英文を完成しなさい。

- I don't feel sad, because I can send you e-mail (you / wherever / are).
- I hear you are leaving for Tokyo next week. Please give me a call (busy / however / are / you).

§131 発展

as, but, than

298 Read such books **as** you can understand easily.

楽に理解できる本を読みなさい。

299 She spoke more **than** was necessary.

彼女は必要以上のことを話した。

as, but, than は関係代名詞として用いられることがある。

Point 1 関係代名詞 **as**

a. **such** ~ **as** ... (→ 298), **the same** ~ **as** ... の形で使うことが多い。

This is **the same** watch **as** I have.

(これは私が持っているのと同じ時計だ)

参考 the same ~ that ... も同様の意味で用いられる。

He gave **the same** answer **as** [that] I did.

(彼は私と同じような返事をした)

b. **as** には前や後に来る主節の内容を先行詞とする用法がある。

She was from Wales, **as** I knew from her accent.

(彼女はウェールズの出身だった。彼女のなまりからわかったのだが)

c. 慣用表現として、**as is usual with** ~ (~にはふつうのことだが), **as is often the case with** ~ (~にはよくあることだが)がある。

As is often the case with him, he broke his promise.

(彼にはよくあることだが、彼は約束を破った)

Wales は英国グレートブリテン島の南西部にある。言語は Welsh(ウェールズ語)。

Point 2 関係代名詞 **than**

比較級を伴って、関係代名詞的に使われる(→ 299)。

I got better grade **than** I had expected.

(期待していたよりいい成績だった)

Point 3 関係代名詞 **but**

that ... not ~ の意味で前に必ず否定語を伴い、「~しないものはない」という二重否定の意味になる。

There is **no** rule **but** has some exceptions.

(例外のない規則はない)

= There is *no* rule *that* doesn't have any exceptions.

CHECK AND EXPRESS 131

次の状況で何と言うか、()内の語(句)を並べかえて英文を完成しなさい。

- 友達のカメラを見て自分もほしくなったとき
I will buy (my friend / same / camera / has / the / as).
- 食べられないほどの食べ物を買ってしまったとき
I bought (I / than / could eat / food / more).

表現BOX 16 後置修飾 — 名詞を後ろから修飾する形

修飾語句の配置は英語と日本語では大きく異なる。日本語は以下の例のように、すべての修飾語句が修飾される名詞の前に置かれる言葉である。

- ① 解けてゆく雪の写真
- ② 昨夜私たちが聴いた曲
- ③ 町の中心にある教会
- ④ 寝る前に読む本

これらを英語で表現すると、以下のように修飾語句の位置が異なる場合が多い。

- ① a picture of the melting snow.
- ② the song which [that] we listened to last night
- ③ the church located in the center of the city
- ④ a book to read before going to bed

①のように、形容詞や分詞が単独で名詞を修飾する場合は、修飾語句は日本語と同じように名詞の前に置かれるが、それ以外は名詞の後ろに置かれる。このように、まとまった長さの修飾語句が後ろから前の名詞を修飾する形を、後置修飾と呼ぶ。名詞を修飾する働きを持つのは形容詞であるため、文法的にはこれらの語句は形容詞句、形容詞節と呼ばれる。この章で学んだ関係代名詞や関係副詞はまさしく後置修飾の典型的な形である。後置修飾のパターンを整理してみよう。

- A. 形容詞(他の修飾語を伴う場合)
a book **useful to English learners** (英語学習者に役立つ本)
- B. 現在分詞、過去分詞(他の修飾語を伴う場合)(上記の③)
the man **standing by the gate** (門のそばに立っている男性)
- C. to不定詞(形容詞的用法)(上記の④)
three children **to take care of** (面倒を見なければならない3人の子ども)
- D. 関係代名詞、関係副詞(上記の②)
the station **where I saw him** (彼を見かけた駅)

第12章 接続詞

イメージをつかもう

つながりの言葉「接続詞」

「接続詞」とは、読んで字のごとく、「語と語、句と句、そして節と節をつなぐ、接着剤の働きをする品詞」のことです。ただし、接続詞は語と節など、異なる種類の要素をつなぐことはありません。この章では「つながりの言葉」である接続詞について学習しますが、一口につなぐといっても、何と何をつなぐのか、どういった関係でつなぐのかがポイントになります。

対等な関係でつなぐ

Jack and Jill (ジャックとジル)

an expensive dress and a cheap T-shirt (高価なドレスと安価なTシャツ)

I sang and he whistled. (私はうたい、彼は口笛を吹いた)



接続詞の and は語句や節などをつなぐ働きをします。この場合、2つの語句、節は同じウエイトを占め、対等な関係にあると言えます。

主従の関係でつなぐ

次の文では、whenで2つの節がつながっています。でも、この場合、文の中心になるのはI was watching TVのほうで、when Tom called meはそれを修飾しています。中心になる節を「主節」、それを修飾している節を「従属節」と言います。

I was watching TV **when** Tom called me.

主節 従属節

(トムが私に電話したとき、私はテレビを見ていた)